

図 3.4-14 調査ルート (地点 No. 24)

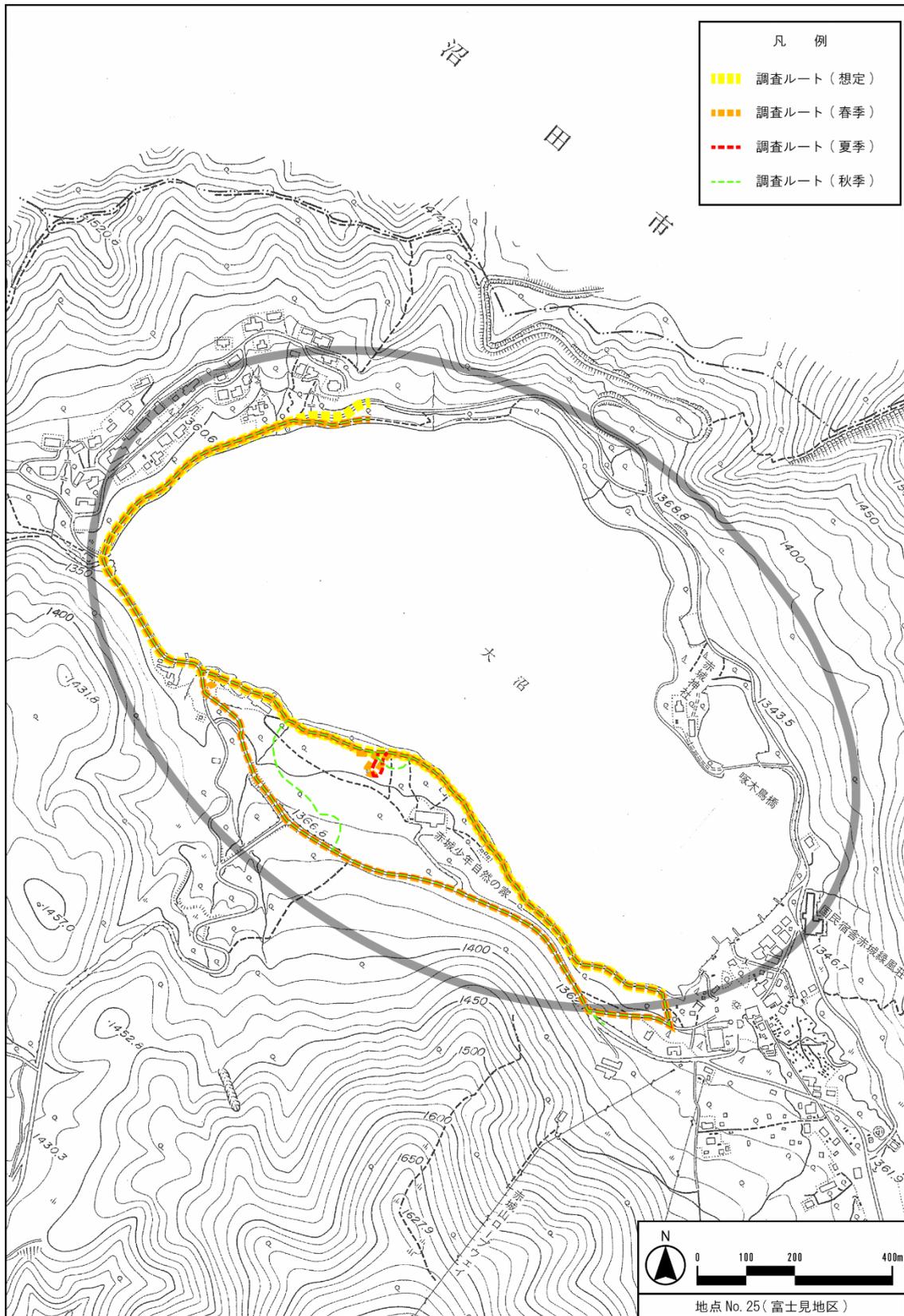


図 3.4-15 調査ルート（地点 No. 25）

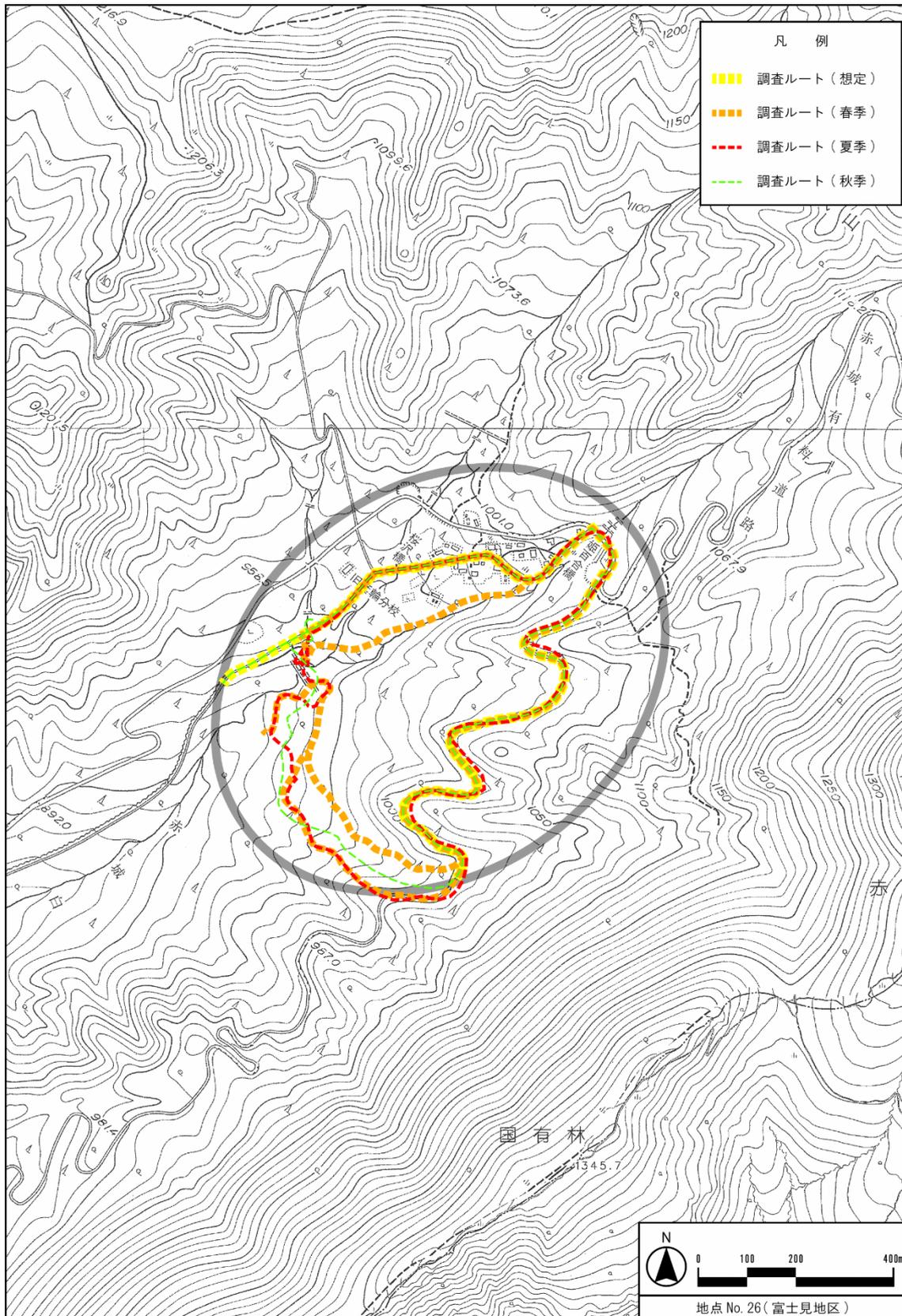


図 3.4-16 調査ルート (地点 No. 26)

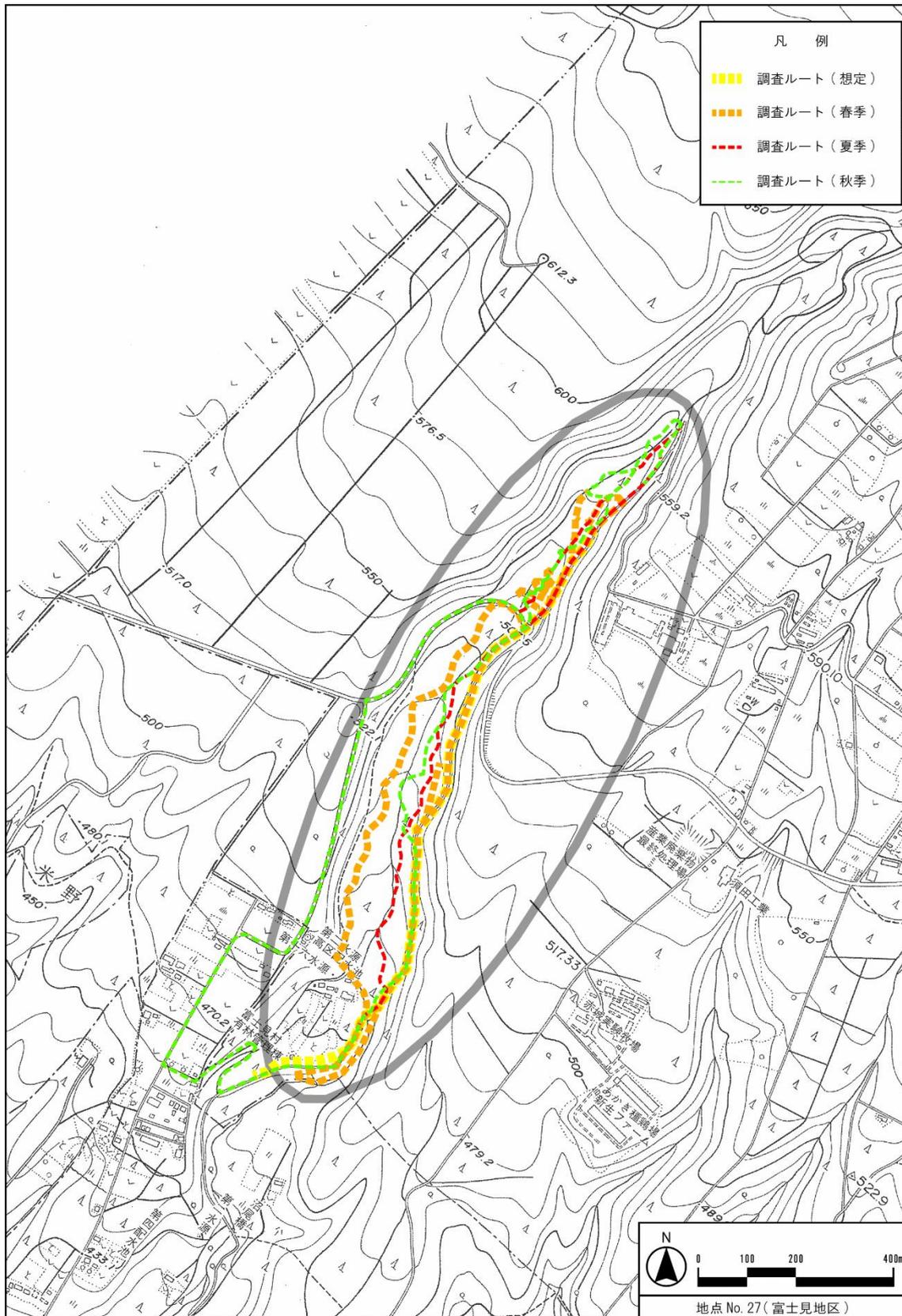


図 3.4-17 調査ルート (地点 No. 27)

## 4 調査結果

### 4.1 植物相調査結果

#### 4.1.1 確認種類数

調査の結果、3季合計で148科564属1228種（亜種、変種、品種を含む）が確認された。

分類群別確認種数を表4.1.1-1に、確認種目録を資料編に示す。

表 4.1.1-1 分類群別確認種数

分類群			調査時期									合計		
			春季			夏季			秋季					
			科数	属数	種数	科数	属数	種数	科数	属数	種数	科数	属数	種数
シダ植物			13	26	65	11	21	55	11	23	59	14	28	78
種子植物	裸子植物		4	7	8	5	8	10	4	6	7	5	10	12
	被子植物	双子葉類 離弁花類	67	212	411	72	220	432	68	194	376	76	248	519
		合弁花類	27	111	212	30	126	224	27	121	218	31	147	300
	単子葉類		16	93	202	18	107	202	22	102	207	22	131	319
合計			127	449	898	136	482	923	132	446	867	148	564	1228

調査地点ごとに確認した種について、総確認種数に対する割合および自生種、外来種、植栽・逸出種で区別した集計結果を表4.1.1-2および図4.1.1-1に示す。

全体では自生種972種(79.1%)、外来種163種(13.3%)、植栽・逸出種93種(7.6%)であった。

調査地点別にみると、合計種数が最も多かった地点はNo.22(500種,宮城地区)であり、ついでNo.7(453種,芳賀地区)、No.13(420種,桂萱・永明・城南地区)であった。一方、合計種数が最も低かった地点はNo.20(208種,宮城地区)であり、次にNo.4(296種,元総社・東地区)であった。また自生種の割合が最も高かった地点はNo.20(99.0%,宮城地区)、ついでNo.25(90.9%,富士見地区)、No.26(90.5%,富士見地区)、No.27(87.9%,富士見地区)であった。また外来種の割合が最も高かった地点はNo.14(29%,桂萱・永明・城南地区)であり、次にNo.4(28.7%,元総社・東地区)、No.6(28.1%,南橘地区)であった。

表 4.1.1-2 地点別確認種数内訳

地区名・地点番号		地点 合計種数	種数内訳 (括弧内は%)		
			自生種	外来種	植栽・逸出種
清里・総社	No. 1	328	226 (68.9)	78 (23.8)	24 (7.3)
元総社・東	No. 4	296	179 (60.5)	85 (28.7)	32 (10.8)
南橋	No. 6	310	202 (65.2)	87 (28.1)	21 (6.7)
芳賀	No. 7	453	379 (83.7)	57 (12.6)	17 (3.7)
桂萱・永明・城南	No. 12	369	255 (69.1)	85 (23.0)	29 (7.9)
	No. 13	420	320 (76.2)	78 (18.6)	22 (5.2)
	No. 14	324	207 (63.9)	94 (29.0)	23 (7.1)
上川淵・下川淵	No. 15	311	205 (65.9)	73 (23.5)	33 (10.6)
利根川 - 敷島公園付近	No. 16	321	228 (71.0)	71 (22.1)	22 (6.9)
利根川 - 下川団地付近	No. 17	318	208 (65.4)	81 (25.5)	29 (9.1)
大胡	No. 19	387	276 (71.3)	87 (22.5)	24 (6.2)
宮城	No. 20	208	206 (99.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
	No. 22	500	399 (79.8)	77 (15.4)	24 (4.8)
粕川	No. 24	366	265 (72.4)	77 (21.0)	24 (6.6)
富士見	No. 25	361	328 (90.9)	31 (8.6)	2 (0.5)
	No. 26	400	362 (90.5)	28 (7.0)	10 (2.5)
	No. 27	373	328 (87.9)	41 (11.0)	4 (1.1)
確認種合計		1228	972 (79.1)	163 (13.3)	93 (7.6)

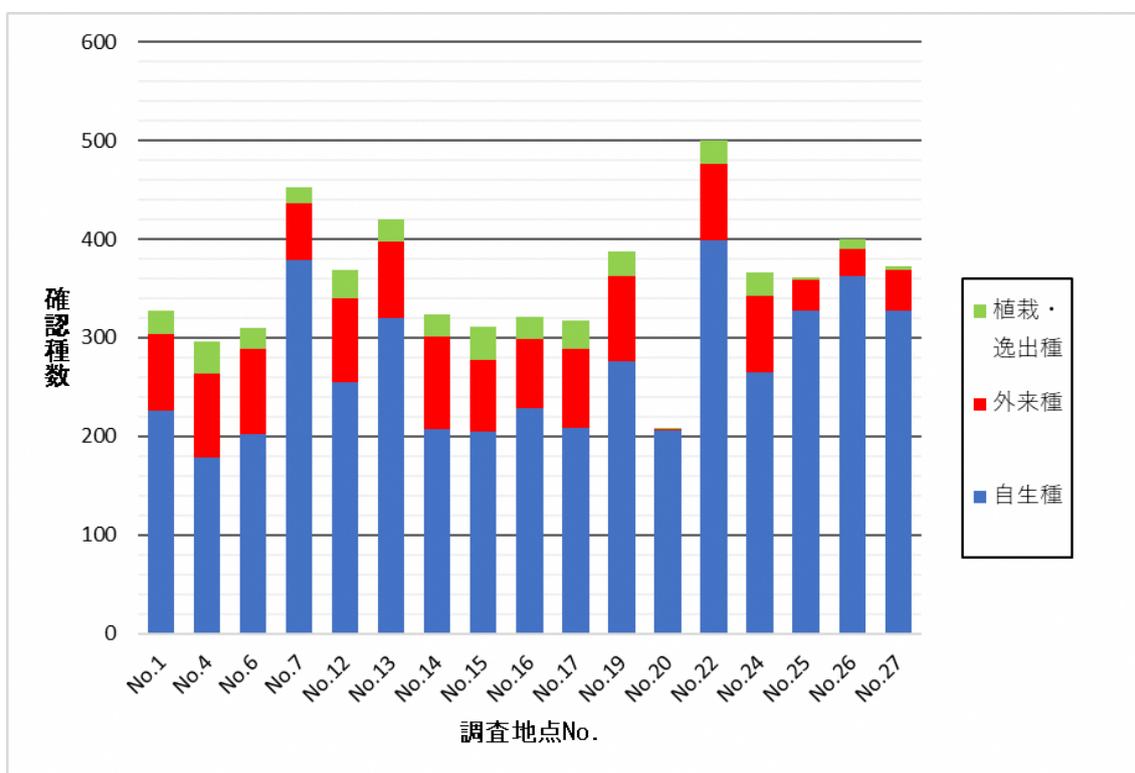


図 4.1.1-1 地点別確認種数内訳

#### 4.1.2 重要種の状況

今回の調査で確認された重要種は表 4.1.2-1 に示す 32 科 47 種であった。表 4.1.2-2 ~ 表 4.1.2-4 に確認された重要種の一般生態および確認状況を示す。

重要種の種数が最も多く確認された地点は No.13 (桂萱・永明・城南地区) であり、17 種の重要種が確認された。具体的な種としてはホソバニガナ、ウキシバ、ヒメガヤツリ、ナガエフタバムグラ等の湿生植物、アブノメ、ウリカワ等の水田雑草のほか、樹林下に生育するオオチゴユリが確認された。

その他、重要種が多く確認された地点は No.7 (芳賀地区)、No.20 (宮城地区)、No.25 (富士見地区) のそれぞれ 8 種であった。また最も重要種の種数が少なかった地点は No.17 (利根川一下川団地地区) の 1 種であった。

以下に確認された重要種の写真を示す。

※種名が赤字のもの、これまでの前橋市自然環境基礎調査および前橋市自然環境調査で確認されていない種類。



ヒメミズニラ



コヒロハハナヤスリ



ハマハナヤスリ



トキホコリ



マツグミ



コギシギシ



ハンゲショウ



ナガミノツルキケマン



コイヌガラシ



アズマツメクサ



サナギイチゴ



コフウロ



ヒゴスミレ



ミズマツバ



ウスゲチョウジタデ



クリンソウ



クサタチバナ



ナガエフタバムグラ



カワヂシャ



ニッコウヒョウタンボク



ホソバニガナ



ノニガナ



ウリカワ



クロモ



ホソバヒルムシロ



アイノコイトモ



サガミトリゲモ



イトトリゲモ



イトイバラモ



オオチゴユリ



ホシクサ



セトガヤ



カリマタガヤ



ウキシバ



ミクリ



イトハナビテンツキ



ミコシガヤ



ツルカミカワスゲ



ヒメガヤツリ





表 4.1.2-2 重要種確認状況等 (1)

種名 (科名)	一般生態	確認状況
ヒメミズニラ (ミズニラ科)	小型の夏緑生水草。北海道・本州（中部以北）の高地の湖沼の岸辺にまれに生育する。	No. 25の大沼の浅所で20株確認された。
コヒロハハナヤスリ (ハナヤスリ科)	小型の夏緑生草本。本州（東北地方中部以南）～琉球の各地で山野の路傍、林下や村落内に見られ、しばしば群生する。	No. 22の明るい草地で10株確認された。
ハマハナヤスリ (ハナヤスリ科)	小型の夏緑生草本。北海道～琉球で湿った砂地から川原、草原などに生育する。	No. 13の乾谷沼の水際の草地で100株確認された。
トキホコリ (イラクサ科)	一年草。北海道（西南部）～本州中部に分布し、低地の湿ったところに生育する。	No. 22のスギ植林下の湿ったところで30株確認された。 No. 24のスギ植林下で50株確認された。
マツグミ (ヤドリギ科)	常緑低木。本州（関東地方・富山県以西）・四国・九州に分布し、モミ・ツガなどの針葉樹に寄生する。	No. 16の敷島公園内のクロマツを含む針葉樹に寄生しているのが多数確認された。
コギシギシ (タデ科)	2年草。本州（関東以西）～九州に分布し、畑地、時に海岸に生育する。花期は4月～6月。	No. 4の耕作地の畔5ヶ所で45株確認された。 No. 12の空き地の縁で5株確認された。 No. 14の休耕地で2株確認された。 No. 17の畑地脇で1株確認された。
ハンゲショウ (ドクダミ科)	多年草。本州から琉球に分布し、低地の水辺や湿地に群生する。臭気がある。花期は6月～8月。	No. 7の大堤沼の水際の湿地で50株確認された。
ナガミノツルキケマン (ケシ科)	2年草。本州・九州に分布し、林縁や草地に生育する。花期は7月～10月。	No. 27のスギ植林下の草地8ヶ所で166株確認された。
コイヌガラシ (アブラナ科)	1年草または越年草。本州～九州に分布し、水田などの水湿地に多く生育する。花期はふつう4月～6月。	No. 13の乾谷沼および五料沼の水際3ヶ所で16株確認された。 No. 24の水田脇の土手で2株確認された。
アズマツメクサ (ベンケイソウ科)	一年草。南千島、北海道、本州、四国に分布し、水田や海浜泥地に生育する。	No. 13の乾谷沼の水際の泥地で1株確認された。
サナギイチゴ (バラ科)	つる状小低木。本州・四国・九州に分布し、日当たりの良い場所や林縁に生育する。	No. 20のミズナラ林下で1株確認された。 No. 25のミズナラ林下や道脇草地など9ヶ所で多数確認された。 No. 26の落葉広葉樹林下5ヶ所で多数確認された。
コフウロ (フウロソウ科)	多年草。本州（山形県・宮城県以南）・四国・九州に分布し、山地の草地に生育する。	No. 25のミズナラ林下で5株確認された。 No. 26の落葉広葉樹林下（主に沢沿い）4ヶ所で22株確認された。
ヒゴスミレ (スミレ科)	多年草。本州（秋田県以南）・四国・九州に分布し、日当たりのよい草地に生育する。	No. 15の八幡山古墳のクロマツ林下で100株確認された。 No. 26のコナラ林下で4株確認された。 No. 27のスギ植林内ののり面で50株確認された。
ミズマツバ (ミソハギ科)	一年草。本州～琉球に分布し、水田や湿地に生育する。	No. 1の水田2ヶ所で5株確認された。 No. 6の水田3ヶ所で16株確認された。 No. 12の水田3ヶ所で135株確認された。 No. 13の水田で20株確認された。 No. 22の水田5ヶ所で28株確認された。 No. 24の水田で1株確認された。
ウスゲチョウジタデ (アカバナ科)	一年草。本州（関東以西）・四国・九州・琉球に分布し、水田や湿地に生育する。	No. 19の水田脇水路で1株確認された。
クリソウ (サクラソウ科)	多年草。南千島・北海道・本州・四国に分布し、山麓の湿地に生育する。	No. 25の大沼沿いの湿地で10株確認された。
クサタチバナ (ガガイモ科)	多年草。本州（福島県南部以西）・四国・九州に分布し、山の草地またはやや乾いた林内に生育する。石灰岩地に多い。花期は6月～7月。	No. 20の尾根沿いの草地及びミズナラ林下で多数確認された。 No. 25のミズナラ林下や道脇草地など5ヶ所で149株確認された。
ナガエフタバムグラ (アカネ科)	一年草。本州～琉球に分布し、湿地、田んぼの畔、畑などに生育する。	No. 13の乾谷沼の水際の減水裸地2ヶ所広範囲に200株が確認された。
コムラサキ (クマツヅラ科)	落葉低木。本州～琉球に分布し、草原や湿地の近くに生育する。花期は7月～8月。	No. 13の乾谷沼の水際の減水裸地で1株確認された。

表 4.1.2-3 重要種確認状況等 (2)

種名 (科名)	一般生態	確認状況
ミゾコウジュ (シソ科)	越年草。本州～琉球に分布し、湿った草地や泥地に生育する。花期は本土では5月～6月、沖縄では4月。	No. 4の畔で1株確認された。 No. 13の乾谷沼の水際の草地5ヶ所広範囲に多数確認された。 No. 14の広瀬川沿いの道脇草地2ヶ所で3株確認された。
アブノメ (ゴマノハグサ科)	一年草。本州 (福島以南)～琉球に分布し、湿地に生育する。花期は8月～9月。	No. 12の水田で12株確認された。 No. 13の水田2ヶ所で11株確認された。 No. 19の休耕田で5株確認された。
カワヂシャ (ゴマノハグサ科)	越年草。本州～琉球に分布し、川岸、溝の淵や田に生育する。花期は5月～6月。	No. 13の乾谷沼の水際の泥地2ヶ所で150株確認された。 No. 14の広瀬川の水際2ヶ所で10株確認された。
ニッコウヒョウタンボク (スイカズラ科)	落葉低木。本州 (関東地方・中部地方・近畿地方北部) に分布し、標高700m～1900mの山地に生育する。花期は5月～6月。	No. 20の尾根沿いの樹林下で2株確認された。
ホソバニガナ (キク科)	多年草。本州 (関東以西)～九州に分布する。根出葉は花の時期にも残る。花期は5月～8月。	No. 13の乾谷沼の水際の草地3ヶ所で77株確認された。
ノニガナ (キク科)	越年草。本州～九州に分布し、田んぼ道などに生育する。花期は4月～5月。	No. 13の五料沼の水辺で8株確認された。
ウリカワ (オモダカ科)	抽水性から沈水性の多年草。本州～琉球に分布し、水田や湿地に生育する。花期は7月～9月。	No. 13の水田で3株確認された。
クロモ (トチカガミ科)	沈水性の多年草。北海道～琉球に分布し、湖沼やため池、水路などに生育する。	No. 25の大沼の比較的浅い所4ヶ所で123株確認された。
ホソバヒルムシロ (ヒルムシロ科)	沈水性～浮葉性の多年草。北海道・本州 (東北) に分布し、淡水の湖沼に生育する。花期は6月～8月。	No. 25の大沼の比較的浅い所2ヶ所で60株確認された。
アイノコイトモ (ヒルムシロ科)	沈水性の多年草。ヤナギモとイトモの自然雑種とされる。淡水の湖沼や河川水路に生育する。	No. 6の水路内で100株確認された。 No. 14の用水路2ヶ所で31株確認された。 No. 24の河川内で1株確認された。
サガミトリゲモ (イバラモ科)	沈水性の一年草。本州～琉球に分布し、ため池や水田に生育する。花期は7月～9月。	No. 19の水田脇承水路で50株確認された。
イトトリゲモ (イバラモ科)	沈水性の一年草。本州～九州に分布し、ため池や水田に生育する。花期は6月～9月。	No. 19の水田脇承水路で100株確認された。
イトイバラモ (イバラモ科)	沈水性の一年草。北海道～本州北部に分布し、湖沼やため池に生育する。	No. 25の大沼の浅所で10株確認された。
オオチゴユリ (ユリ科)	多年草。北海道・本州 (北部～中部) に分布し、産地の林下に生育する。花期は5月～6月。	No. 1のすぎ植林内2ヶ所で150株確認された。 No. 7のコナラ林で50株確認された。 No. 13の乾谷沼沿いの林縁3ヶ所で多数確認された。
ホシクサ (ホシクサ科)	一年草。本州～琉球に分布し、水田や湿地に生育する。夏から秋に開花結実する。	No. 6の水田2ヶ所で120株確認された。 No. 22の水田で5株確認された。
セトガヤ (イネ科)	一年草。本州 (関東以西)～九州に分布し、草原や休耕田に生育する。花期は5月。	No. 12の休耕田で100株確認された。
カリマタガヤ (イネ科)	一年草。北海道～琉球に分布し、湿地に生育する。花期は8月～10月。	No. 7の調整池の堤体護岸上 (水際) で100株確認された。
ウキシバ (イネ科)	多年草。本州～九州に分布し、湿地、沼のほとりにまれに生育する。花期は8月。	No. 13の乾谷沼の水際の減水裸地で40株確認された。
ミクリ (ミクリ科)	多年草。北海道～九州に分布し、水位の浅い池や湿地に生育する。花期は6月～8月。	No. 13の五料沼近くの湿地で多数確認された。 No. 16の敷島公園内の水路で多数確認された。
イトハナビテンツキ (カヤツリグサ科)	一年草。北海道～九州に分布し、平地の日当たりのよい荒地または畑地に生育する。果実は8月～10月に熟する。	No. 7の調整池の堤体護岸上2ヶ所で24株確認された。 No. 15の公園のシバ草地及び植え込みの裸地2ヶ所で80株確認された。 No. 20の向陽の岩の隙間で1株確認された。 No. 26の向陽の草地で100株確認された。

表 4.1.2-4 重要種確認状況等 (3)

種名 (科名)	一般生態	確認状況
ミコシガヤ (カヤツリグサ科)	多年草。本州に分布し、平地や河川の縁などの草地に生育する。果実は5月～6月に熟する。	No. 13の乾谷沼の水際の草地で50株確認された。 No. 14の広瀬川沿いの草地5ヶ所で81株確認された。
ツルカミカワスゲ (カヤツリグサ科)	多年草。北海道・本州北部・九州に分布し、山中の草地に生育する。果実は5月～7月に熟する。	No. 27のスギ植林下の湿った草地2ヶ所で55株確認された。
ヒメガヤツリ (カヤツリグサ科)	一年草。本州～琉球に分布し、湿地や水田などに生育する。果実は8月から11月に熟す。	No. 13の乾谷沼の水際の減水裸地で200株確認された。

注)一般生態については、「日本の野生植物 シダ」(科)岩槻邦男編, 1992. 平凡社)、「日本の野生植物 1、2、3、4、5」(大橋広好 門田裕一 邑田仁 米倉浩司 木原浩 編, 2015～2018. 平凡社を参考とした。

### 4.1.3 特定外来生物の状況

今回の調査で確認された特定外来生物は表 4.1.3-1 に示す 4 科 5 種であった。表 4.1.3-2 に、確認された特定外来生物の一般生態および確認状況を示す。

特定外来生物の種数が最も多く確認された地点は No.14 (桂萱・永明・城南地区) であり、アレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクの 4 種が確認された。一方、まったく特定外来生物が確認されなかったところは、No.16 (利根川一敷島公園付近地区)、No.20 (宮城地区)、No.25 (富士見地区) の 3 地点であった。

また今回の調査で最も広範囲で確認された種はアレチウリで、12 地点で生育が確認された。次に多くの地点で確認された種はオオキンケイギクが 8 地点、ついでオオカワヂシャが 7 地点、もっとも確認地点が少なかった種は No.14 (桂萱・永明・城南地区) のみで生育が確認されたオオフサモと No.26 (富士見地区) のみで生育が確認されたオオハンゴンソウであった。

以下に、確認された特定外来生物の写真を示す。



アレチウリ



オオフサモ



オオカワヂシャ



オオキンケイギク



オオハンゴンソウ

表 4.1.3-1 特定外来生物確認調査地点一覧

科名	種名	調査地点																
		清里・総社	元総社・東	南橋	芳賀	桂萱・永明・城南			下川淵	上川淵	利根川・敷島	下利根川・近	大胡	宮城	粕川	富士見		
		No. 1	No. 4	No. 6	No. 7	No. 12	No. 13	No. 14	No. 15	No. 16	No. 17	No. 19	No. 20	No. 22	No. 24	No. 25	No. 26	No. 27
ウリ	アレチウリ	●		●	●	●	●	●	●		●	●		●	●			●
アリノトウグサ	オオフサモ							●										
ゴマノハグサ	オオカワヂシャ			●		●	●	●			●	●			●			
キク	オオキンケイギク		●	●		●		●	●		●		●		●			
	オオハンゴンソウ																	●
合計：4科5種		1種	1種	3種	1種	3種	2種	4種	2種	0種	2種	3種	0種	2種	3種	0種	1種	1種

表 4.1.3-2 特定外来生物確認状況等

種名 (科名)	一般生態	確認状況
アレチウリ (ウリ科)	<p>陸生の一年草。 北アメリカ原産。南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニアに分布する。日本では全国に分布している。 温帯から熱帯に分布する。林縁、荒地、河岸、路傍、原野、畑地、樹園地、造林地などに生育する。日当たりの良い場所を好む。様々な土壌に生育できるが、腐植質の多い沖積地を置く好むため、有機質の多い汚染された河川の川岸に非常に多い。 一株当たり400から500個の種子をつけるが、25000個以上の報告もある。種子には休眠性があるので土壌シードバンクを形成する。果実(液果)は風、雨により運ばれるほか、表面の棘で人や動物に付着して運ばれる。開花期は8月～10月。</p>	<p>No. 1の川沿い4ヶ所及び竹林沿い1ヶ所で多数確認された。 No. 6の河川沿いの草地3ヶ所で多数確認された。 No. 7の道路沿いの草地で10株確認された。 No. 12の河川沿いの土手及び田の畔など9ヶ所で多数確認された。 No. 13の畑脇、道沿いの草地など5ヶ所で多数確認された。 No. 14の広瀬川沿いの草地など18ヶ所で多数確認された。 No. 15の河川沿い草地で2株確認された。 No. 17の利根川の河原及び道脇の草地など3ヶ所で多数確認された。 No. 19の河川内草地及び道脇の草地など12ヶ所で多数確認された。 No. 22の耕作地脇の草地5ヶ所で多数確認された。 No. 24の道脇の草地2ヶ所で多数確認された。 No. 27の道脇の草地で3株確認された。</p>
オオフサモ (アリノトウグサ科)	<p>抽水性の多年草。 南アメリカ原産。北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニアに分布する。日本では全国に分布する。 温帯から熱帯に分布する。湖沼、河川、池、水路、一部の休耕地など水の浅いところに生育する。耐寒性があり、主に根茎で越冬するが、九州では地上部も完全に枯れないままで越冬する。雌株と雄株があり日本では雌株のみで種子生産は確認されていない。栄養繁殖が旺盛でバラバラになった茎から葉や根を出して再生する。殖芽を作らない。開花期は6月ごろ。</p>	<p>No. 14の広瀬川の水際2ヶ所で35株確認された。</p>
オオカワヂシャ (ゴマノハグサ科)	<p>陸生から湿生の越年草から多年草。 ヨーロッパからアジア北部が原産。南北アメリカ、アフリカ、オーストラリアにも分布する。日本では関東中部地方で休息に分布を拡大している。 温帯から熱帯に分布する。湖沼、河川の岸辺、水田、湿地に生育する。 種子は風、雨、動物などによって運ばれる。地下茎から芽や根を出して繁殖する。 開花期は4月から9月。</p>	<p>No. 6の河川内2ヶ所で58株確認された。 No. 12の河川内の水際3ヶ所で150株確認された。 No. 13の乾谷沼のヤナギ林内(流入水路)で5株確認された。 No. 14の広瀬川の水際2ヶ所で6株確認された。 No. 17の利根川の河原4ヶ所で36株確認された。 No. 19の河川の水際2ヶ所で10株確認された。 No. 24の河川内の水際及び浅所など3ヶ所で38株確認された。</p>
オオキンケイギク (キク科)	<p>陸生の多年草。アメリカ合衆国中部、南東部(ミシガン州からフロリダ州、ニューメキシコ州)原産。日本では全国に分布する。 温帯に分布する。路傍、河川敷、線路際、海岸など日当たりの良いところに生育する。 昆虫に受粉を頼る虫媒花。果実は瘦果で側面に薄い翼があり、風に飛ばされやすい。 開花期は5月から7月。</p>	<p>No. 4の道脇3ヶ所で55株確認された。 No. 6の道脇3ヶ所で199株確認された。 No. 12の道路沿いのり面草地で50株確認された。 No. 14の法面草地で6株確認された。 No. 15の植え込み及び道脇2ヶ所で130株確認された。 No. 19の河川両岸のり面の石垣及び道脇の草地3ヶ所で多数確認された。 No. 22の水田脇草地で50株確認された。 No. 24の河川沿いの草地及び道脇6ヶ所で多数確認された。</p>
オオハンゴンソウ (キク科)	<p>陸生の多年草。北アメリカ原産。日本では全国に分布するが、中部地方以北の寒冷地に多い。 冷温帯に分布する。路傍、荒地、畑地、湿原、河川敷などに生育する。 昆虫に受粉を頼る虫媒花。 地上部が枯れたり、刈り取られても残った地下茎から茎を出して再生する。 開花期は7月から10月。</p>	<p>No. 26の民家脇の草地2ヶ所で30株確認された。</p>

注) 一般生態については「特定外来生物の見分け方(同定マニュアル)」(環境省)

([http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp\\_shokubutsu.pdf](http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp_shokubutsu.pdf))を加工して作成した。

## 4.2 植生調査結果

### 4.2.1 確認された植物群落等

調査の結果、表 4.2.1-1 に示す植物群落などが確認された。作成した植生図を図 4.2.1-1～図 4.2.1-17 に示す。

表 4.2.1-1 確認された植物群落等一覧

基本分類 No.	基本分類	群落名	群落表示コード	基本分類 No.	基本分類	群落名	群落表示コード	
1	沈水植物群落	オオカナダモ群落	1a	10	落葉広葉樹林	イヌブナ群落	10a	
		バイカモ群落	1b			サワグルミ群落	10b	
2	浮葉植物群落	ヒルムシロ群落	2a			クマシデ-ミヤマヤシヤブシ群落	10c	
		ハス群落	2b			フサザクラ群落	10d	
3	一年生草本群落 (湿生草地)	オオイヌタバ-オオクサキビ群落	3a			コナラ群落	10e	
		ミノソバ群落	3b			ケヤキ群落	10f	
		カリマダガヤ群落	3c			ムクノキ-エノキ群集	10g	
4	一年生草本群落	コセンダングサ群落	4a			ミスギ群落	10h	
		メヒシバ-エノコログサ群落	4b			スルデ-アカメガシワ群落	10i	
		ヒメムカシヨモギ-オオアレチノギク群落	4c			ヤマグワ群落	10j	
		オオブタクサ群落	4d			オニグルミ群落	10k	
		オヒシバ-アキメヒシバ群集	4e			ミスナ群落	10l	
		カナダグラ群落	4f			コナラ群落 (低木林)	10m	
5	多年生広葉草本群落	アレチウリ群落	4g			シラカンバ群落	10n	
		カゼクサ-オオバコ群集	5a			ダケカンバ群落	10o	
		カラムシ群落	5b			ヤマハンノキ群落	10p	
		セイタカアワダチソウ群落	5c					
		イタドリ群落	5d					
6	単子葉草本群落 (湿生草地)	ツルヨシ群集	6a			11 常緑広葉樹林	アラカシ群落	11a
		ヨシ群落	6b			24 常緑針葉樹林	ウラジロモミ林	24a
		オギ群落	6c	12 植林地 (竹林)	竹林	12a		
		ウキヤガラ-マコモ群集	6d	13 植林地 (スギ・ヒノキ)	スギ・ヒノキ植林	13a		
		ガマ群落	6e	14 植林 (アカマツ・クロマツ)	アカマツ植林	14a		
		カササグ群落	6f		クロマツ植林	14b		
		セリクサヨシ群集	6g		クロマツ植林 (幼齢林)	14c		
		ヌマガヤ群落	6h		カラマツ植林	14d		
7	単子葉草本群落	ヒメガマ群落	6i	15 植林地 (その他)	シンジュ群落	15a		
		ススキ群落	7a		ハリエンジュ群落	15b		
		チガヤ群落	7b		マダコ群落	15c		
		シバ群落	7c		カツラ植林	15d		
		ネズミムギ群落	7d		ミスギ植林	15e		
		シナダレスズメガヤ群落	7e		植栽樹林地	15f		
		メリケンカルカヤ群落	7f		シダレヤナギ植林	15g		
		オニウシノケグサ群落	7g		カジノキ群落	15h		
		セイバンモロコシ群落	7h		16 果樹園等	クワ畑	16a	
		タチヤナギ群集	8a			果樹園	16b	
8	ヤナギ林	ジャヤナギ-アカメヤナギ群集	8b	17 畑	樹園地	16c		
		オノエヤナギ群落	8c		畑地 (畑地雑草群落)	17a		
		ジャヤナギ-アカメヤナギ群集 (低木林)	8d	18 水田	水田	18a		
		コメヤナギ群集 (低木林)	8e	19 人工草地	人工草地	19a		
		オノエヤナギ群落 (低木林)	8f	20 グラウンドなど	公園グラウンド	20a		
		カワヤナギ群落 (低木林)	8g		人工裸地	20b		
		バココヤナギ群落 (低木林)	8h	21 市街地、構造物等	建ぺい地・施設・構造物等	21a		
		アズマネザサ群落	9a		道路	21b		
9	その他の低木林	クサ群落	9b	22 自然裸地	自然裸地	22a		
		ミヤコザサ群落	9c	23 開放水面	開放水面 (流水域)	23a		
		クコ群落	9d	開放水面 (止水域)	23b			
		イタチハギ群落	9e					
		ツツジ科低木群落 (ヤマツツジ、アカヤシオ等)	9f					

※群落表示コードについては前回の報告書に準拠した。黄色で色塗りした群落は今回調査で確認されなかった群落。

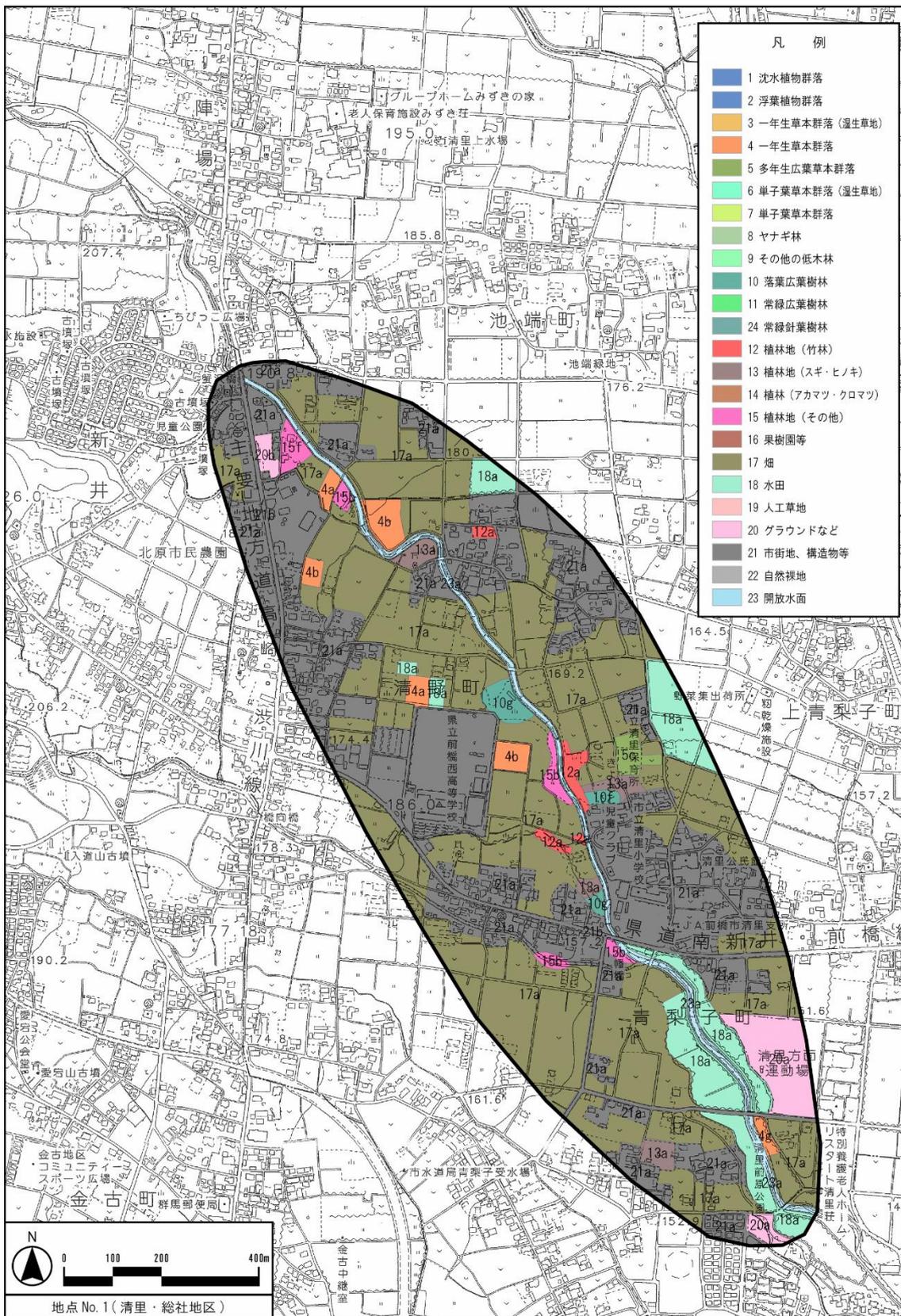


図 4.2.1-1 植生図 (地点 No. 1)

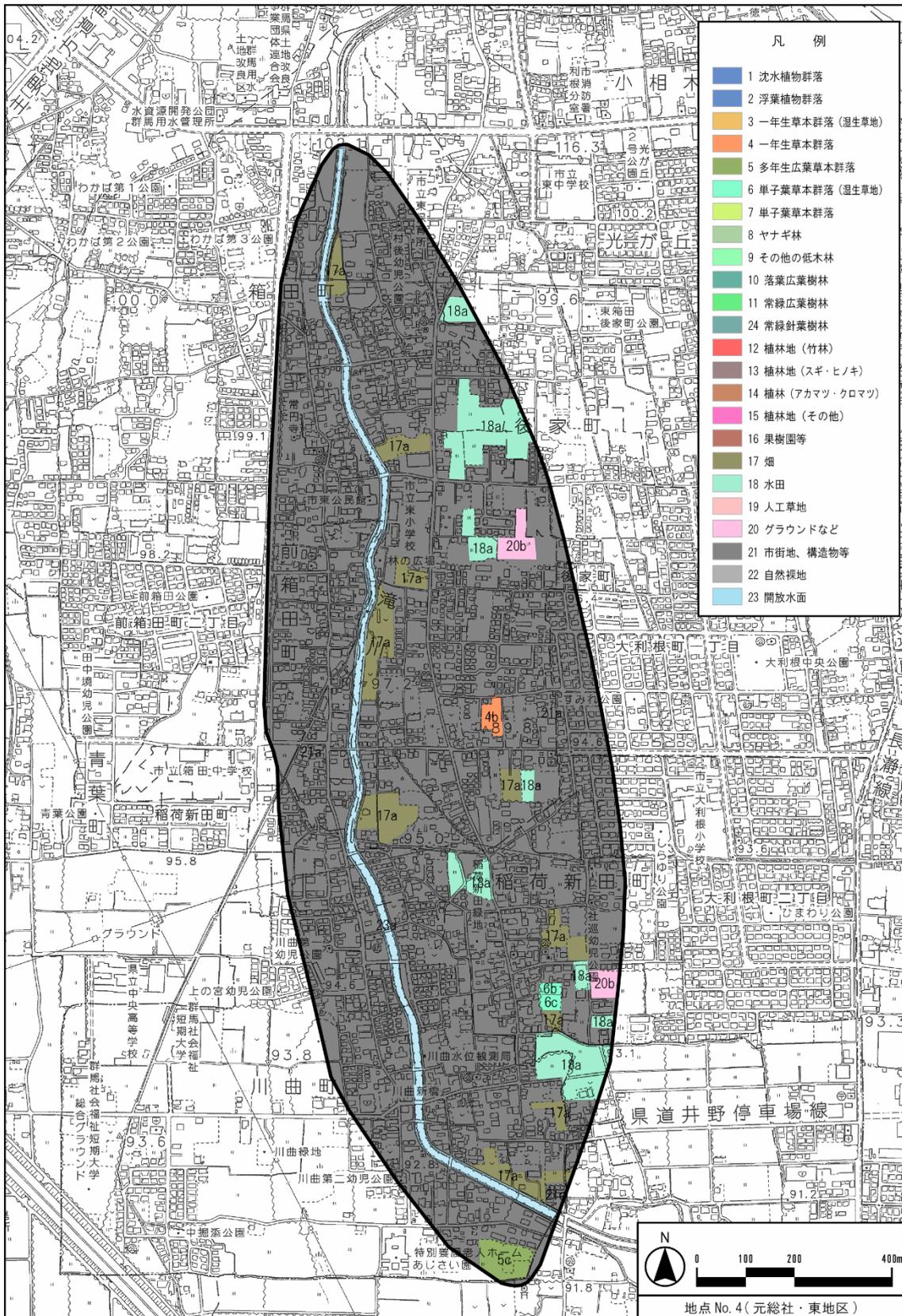


図 4.2.1-2 植生図 (地点 No. 4)

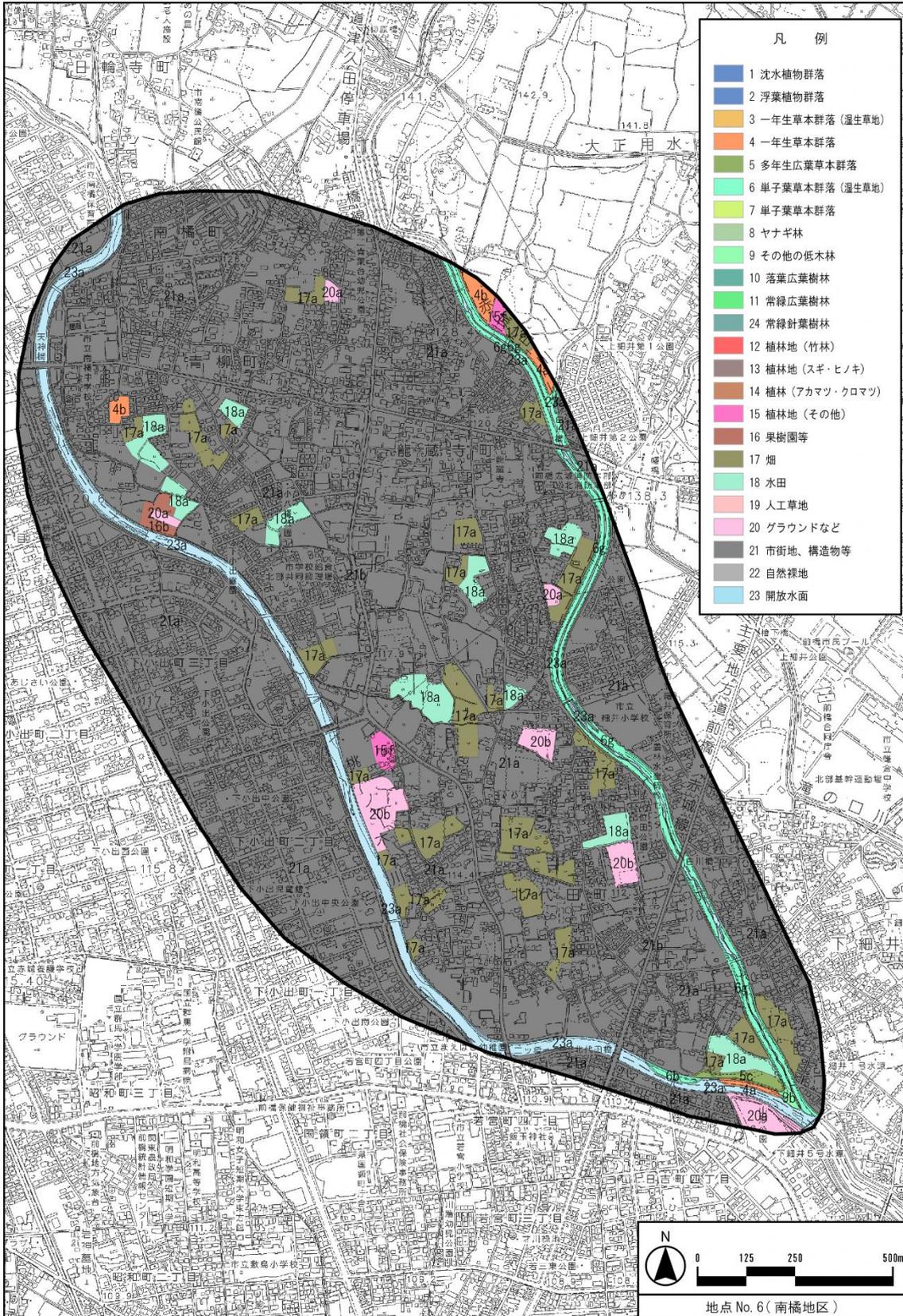


図 4.2.1-3 植生図 (地点 No. 6)

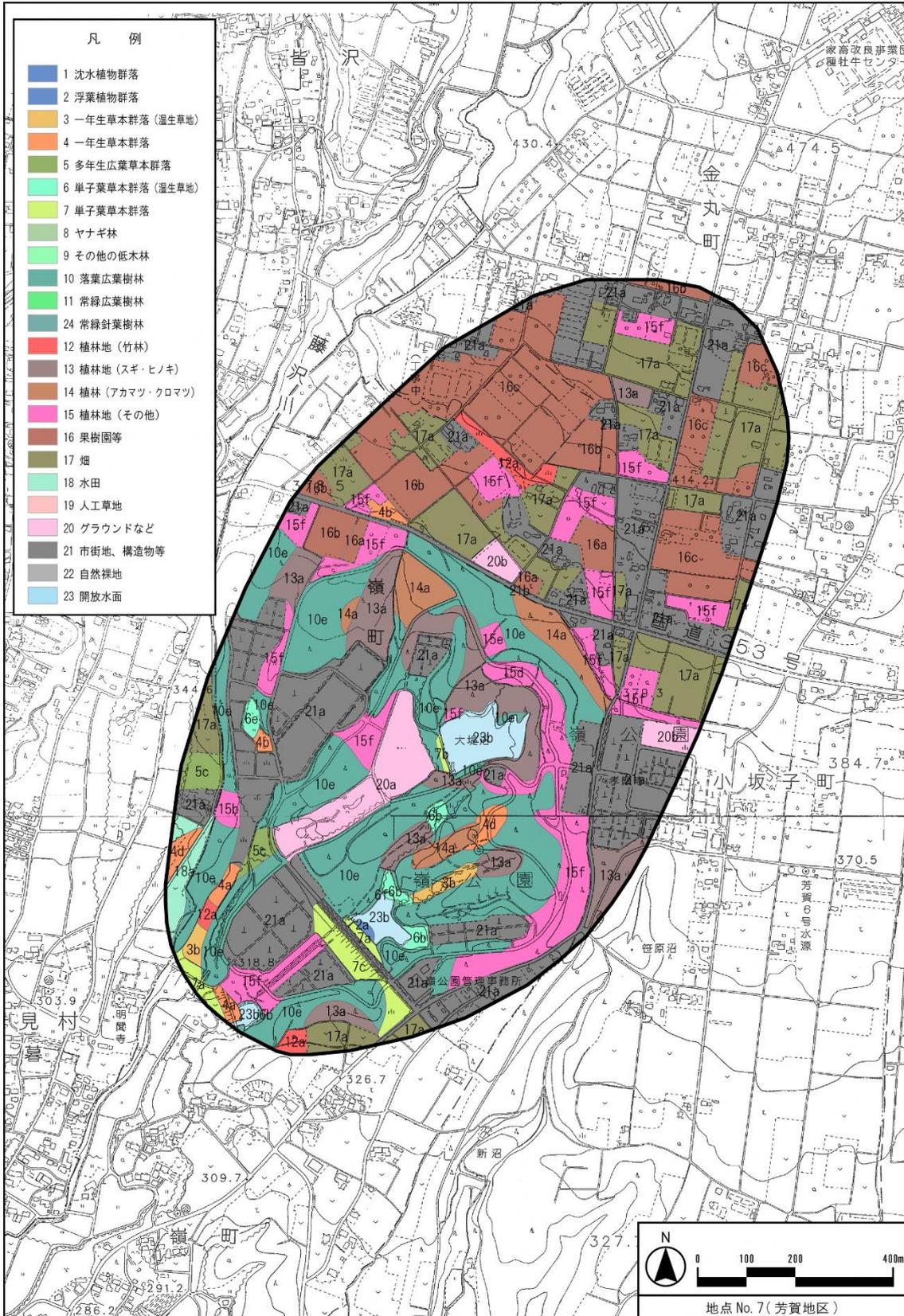


図 4.2.1-4 植生図 (地点 No. 7)

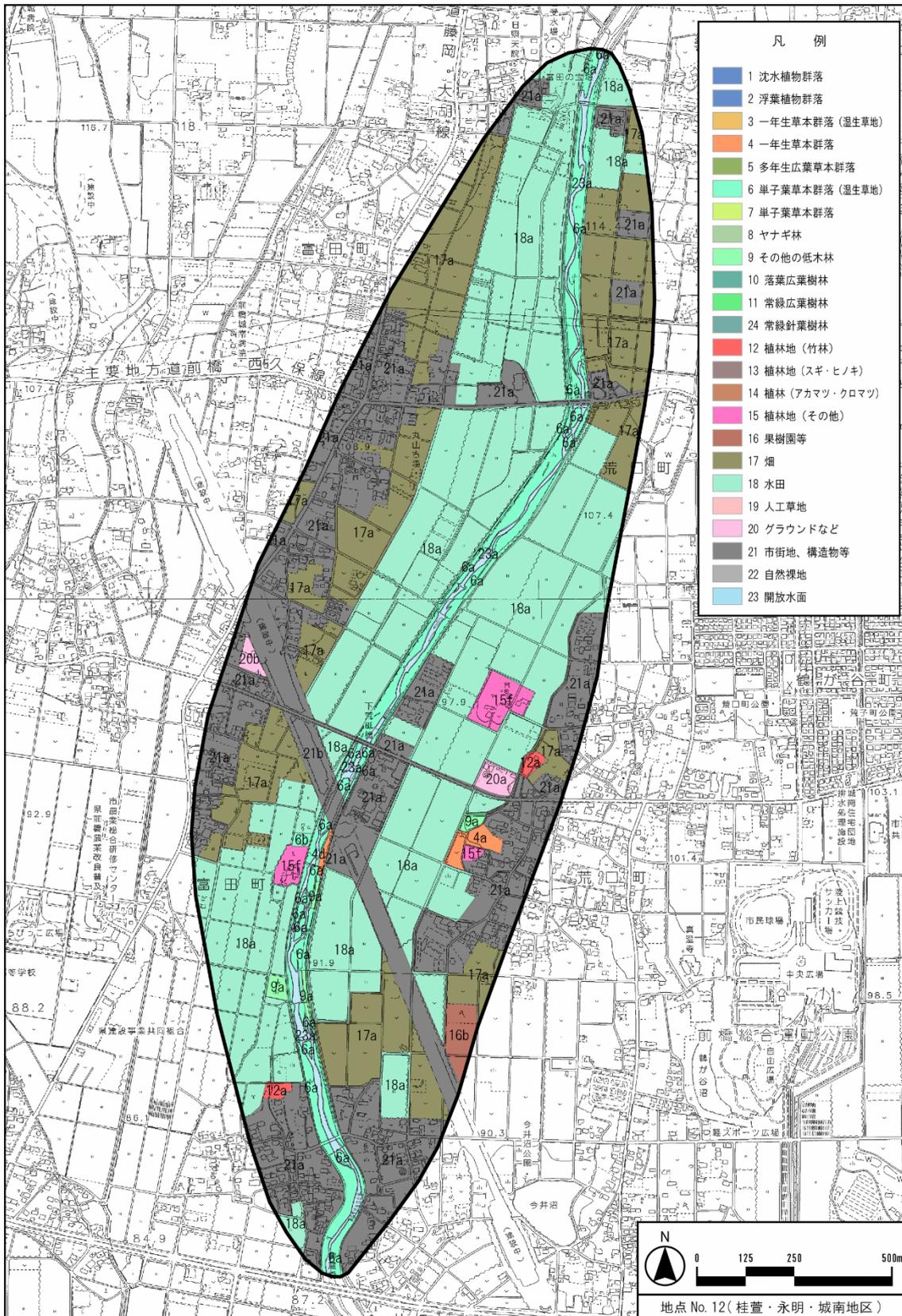


図 4.2.1-5 植生図(地点 No. 12)

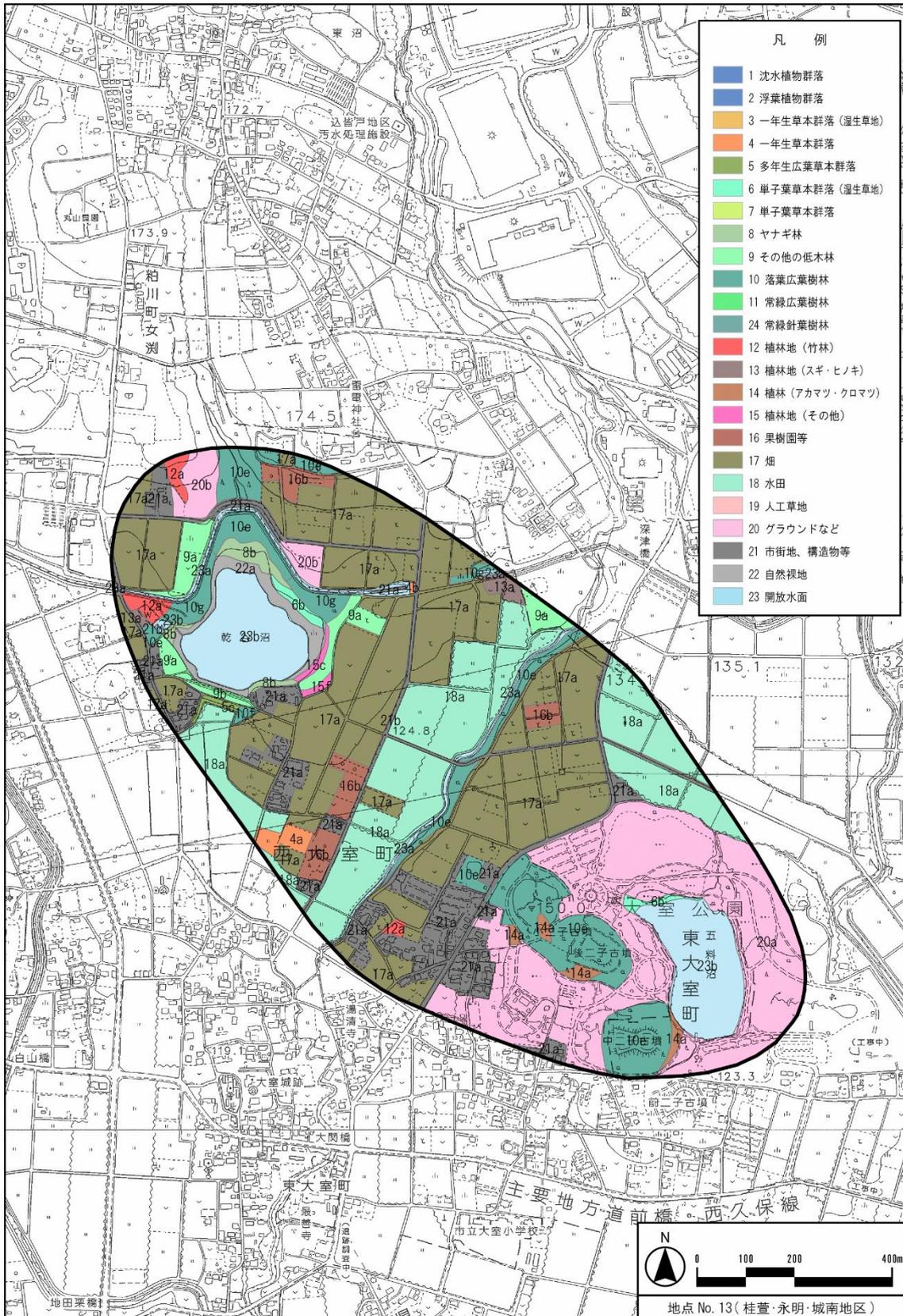


図 4.2.1-6 植生図 (地点 No. 13)

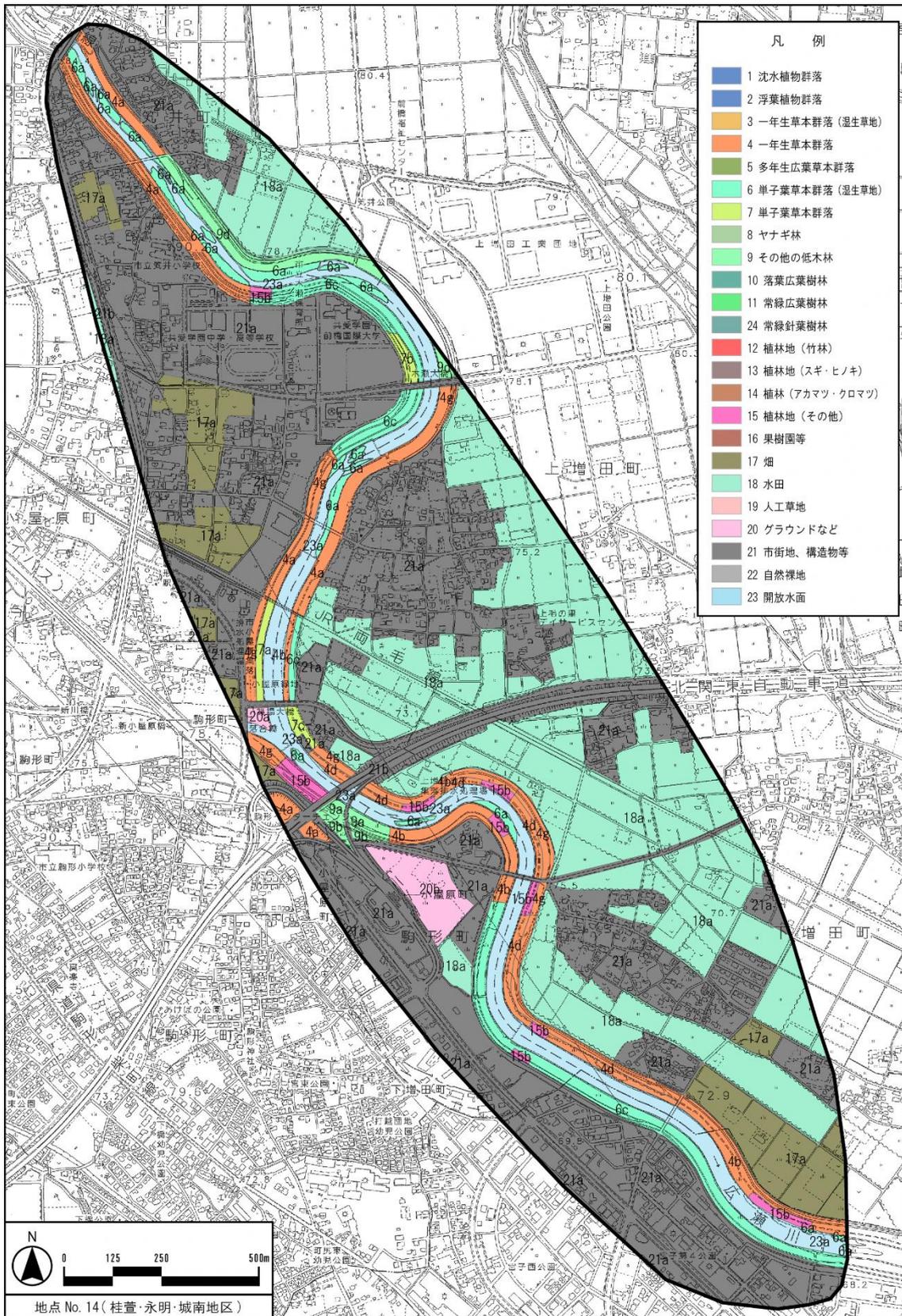


図 4.2.1-7 植生図 (地点 No. 14)

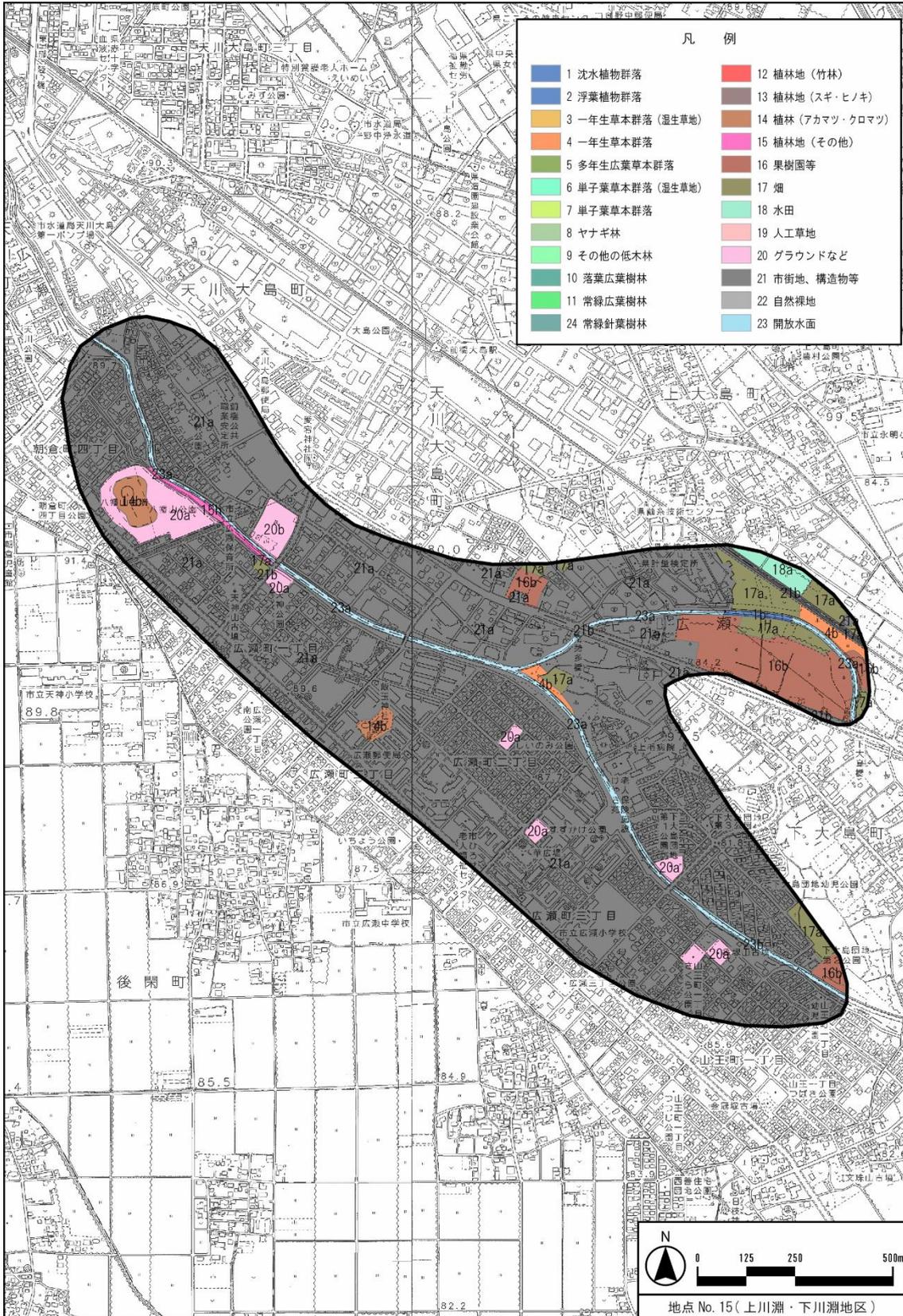


図 4.2.1-8 植生図 (地点 No. 15)

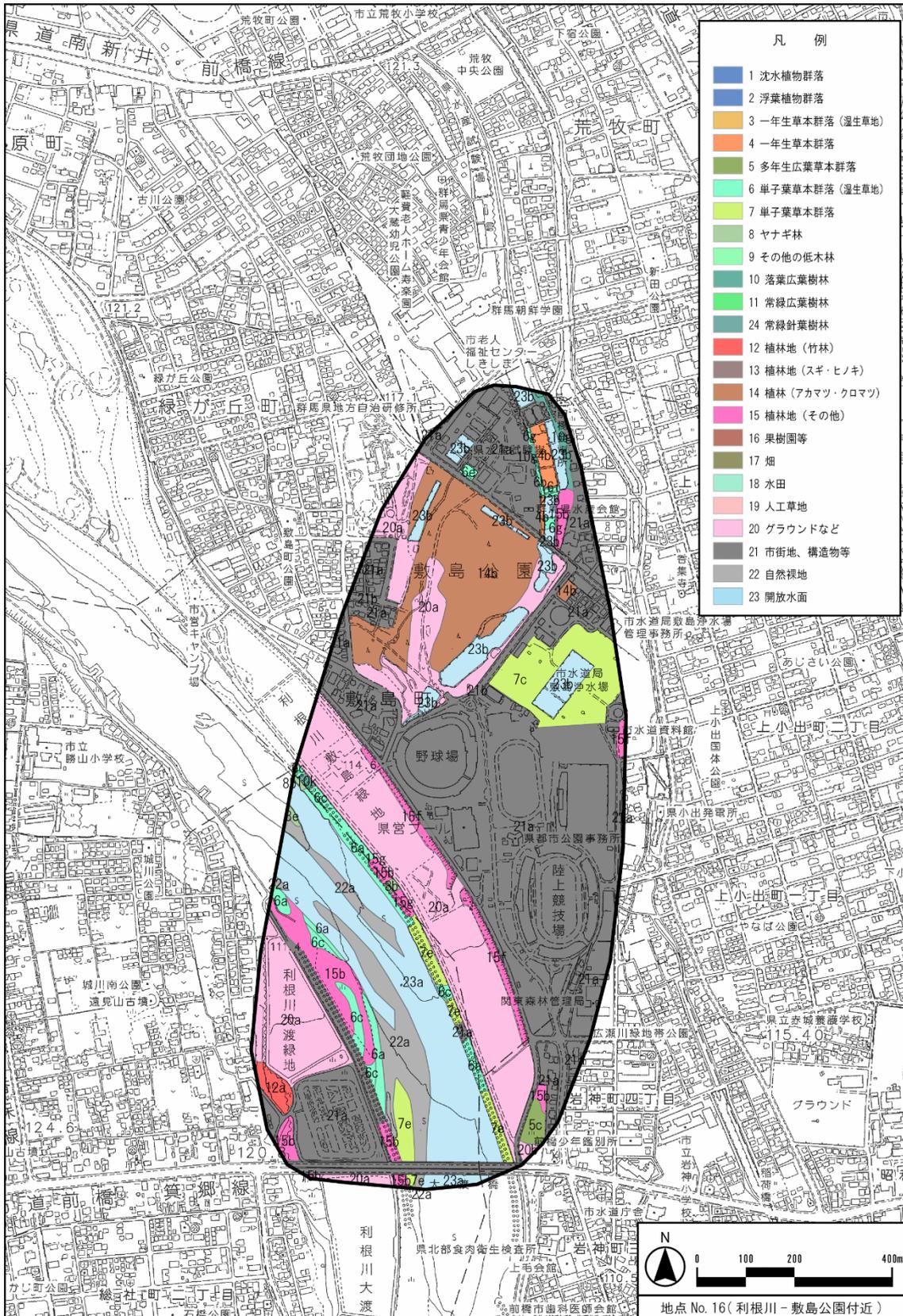


図 4.2.1-9 植生図 (地点 No. 16)